

平成27年度

事業報告書

学校法人 村上学園

東 大 阪 大 学
東大阪大学短期大学部



目次

建学の精神と本学の使命	4
学園訓	4
本学の教育目的	4
本学の教育目標	4
I. 法人の概要	
1. 沿革	5
2. 法人事務局・学校の所在地	6
3. 設置する学校・学部・学科及び学生・生徒・園児数（平成27年5月1日現在）	6
4. 役員・教職員等の概要（平成27年5月1日現在）	6
II. 事業の概要	
【はじめに】	7
【東大阪大学】	
[1] こども学科	9
1. 入学前教育	9
2. 初年次教育	10
3. カリキュラムの見直し	10
4. 子どもに関する事を学んで、子どもとかわる機会を得る	10
5. キャリア向上のための授業の再編	11
[2] アジアこども学科	12
1. オープンキャンパス	12
2. 「アジア地域文化研修」	12
3. 大学祭の模擬店	13
4. アジアこども学研修（中国）	13
【東大阪大学短期大学部】	
[1] 健康栄養学科	14
1. 入学前教育の実施	14
2. 地域との連携強化による実践栄養	14
3. 実践栄養の情報発信	16
4. 実践栄養のカリキュラム検討	16
[2] 幼児教育学科	17
1. アドバイザー制の充実	17
2. 入学前教育の実施	17
3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施	17
4. 資格取得について	18
5. 学生の学習状況について	18
6. 施設的課題について	18



7. 開学50周年への取り組み	18
【大学・短期大学部共通】	
[1] 教学部（教務担当）	19
1. 教室の運用見直し	19
2. 開講科目及び時間割について	19
3. 実習指導について	19
4. 公開講座の実施	19
5. 大学コンソーシアム大阪について	20
6. 教員免許状更新講習認定講座の開催	20
7. 高大連携について	20
[2] 教学部（学生担当）	21
1. 社会のルールや人との約束を守る人物に	21
2. 学園祭を通じて地域社会とのつながりを	21
3. 年中行事に合わせた学生会・学友会による企画	21
4. ボランティア活動等の充実	22
5. クラブ活動について	22
[3] 入試広報部	24
1. 入試制度	24
2. 広報活動	24
3. オープンキャンパス	25
4. 高等学校教員対象入試説明会の開催	25
5. 入試結果	25
[4] 図書館	26
1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供	26
2. 図書館各種企画事業	27
3. 急を要する配慮事項	27
[5] キャリアサポートセンター	28
1. 就職支援対策講座	28
2. 就職活動支援	28
3. キャリア教育支援	28
4. 就職先の開拓	28
5. 進路指導・相談	28
[6] 海外交流室	29
1. 海外研修の支援	29
2. 留学生のためのチューター制度の実施	29
3. 留学生の学生生活支援活動	29
4. 南京曉荘学院との交流提携	29
5. 留学生募集広報活動	30



[7] 情報教育センター	30
1. 平成28年度新入生にPC購入計画成立.....	30
2. 在学生が自由に使えるPC環境の拡充.....	30
3. 学生支援の一環としてOfficeの配布計画.....	30
4. Eラーニングの充実に向けての準備.....	30
5. ICT教育を充実させるためのカリキュラム編成.....	31
6. キャンパスネットワークの安全確保.....	31
7. 情報共有の徹底化.....	31
[8] 健康センター	31
1. 保健室.....	32
2. 学生相談室.....	33
[9] こども研究センター	34
1. 「こども広場」(月曜日～金曜日).....	34
2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日(月1回).....	35
3. 「こども応援ひろば」.....	35
[10] FD・SD・IR研究会	37
1. 研修会.....	37
2. 授業評価アンケートの実施.....	37
3. 授業評価アンケートの分析.....	37
[11] 総務部	38
1. 教育懇談会の開催.....	38
2. 防災避難訓練の実施.....	38
[12] 桃風寮(学生寮)	39
1. 新寮生歓迎会.....	39
2. 防災訓練.....	39
3. 七夕祭・浴衣着付け体験.....	40
4. 退寮生送別会.....	40
Ⅲ. 学園財務の概況	
1. 消費収支計算書.....	41
2. 貸借対照表.....	43
3. 財務比率.....	43



建学の精神と本学の使命

開学の祖、村上平一郎先生が学園の設立を志されたのは、「健康にして聡明、情操豊かにして強い生活力を持った人材を育成する」ためであり、この目標を生かすべく、「萬物感謝・質実勤労・自他敬愛」の学園訓を掲げられた。この建学の精神は、時代の変化を超えて不偏性を持つものであり、本学が実践に努めている「学問を通して人間を作る教育」の支柱となっている。

本学の使命は、建学の精神を継承し、大学学則第1条（目的）、第3条の2（各学科の人材養成目的）、短期大学部学則第1条（目的）、第5条の2（各学科の人材養成目的）に従い、教育科目並びに専門科目に関する教育と研究を通じて、社会の良き形成者を育成し、世界文化の発展と人類福祉の向上に貢献することにあるのはいうまでもない。

学園訓

萬物感謝

「私は、自分以外のすべてによって生かされている。ありがたいことだと感じること。」

私たちが生きていくには、大きく考えれば宇宙全体の力で生きていると言えます。私たちは、空気や太陽、自然界の色々な恵みによって生かされています。言い換えると、宇宙全体のおかげで、自分が今ここに生きているのです。私たちは、萬物のおかげによって、生きているのです。したがって、物を大切にし、すべての命を大切にし、感謝する心を持つことが大切です。

質実勤労

「かざり気がなく、真面目に、自分の仕事に精を出し、努力すること。」

科学技術の進歩、高度情報化社会の時代に、将来、社会に役立つ立派な人になるためには、陰日なたなく努力し、自分に与えられたことに対して責任を果たすことです。真面目に、日々の努力を積み重ねる必要があります。そのためには、精神力と身体を鍛え、持っている力を十分発揮できるように努力することが必要です。

自他敬愛

「かけがえのない自分を大切にすることはもちろんのこと、他人も大切にすること。」

今、地球上には数多くの人間が生存していますが、自分というものは、世界でたった一人のかけがえのない存在です。それと同様、他人もまたかけがえのない存在です。自分というものは、他人がいなくては生きていけないし、他人によって生かされていることを自覚し、相手の立場をお互いに理解しあうことが大切です。
(村上靖平理事長 入学式告辞より)

本学の教育目的

本学は、教育基本法並びに学校教育法の示すところに従い、村上学園建学の精神と伝統に基づき、学問を通して人間を作る教育をめざすとともに、大学においては、子どもに関する総合的な学芸を教授研究し、豊かな実践力を身につけた有為な人材を育成することを目的とし、短期大学部においては一般教養とともに健康栄養並びに幼児教育に関する実際的な専門の学芸を授け、家庭・社会の良き形成者を育成することを目的とする。

本学の教育目標

大学…広い教養と豊かな情操を備え、子どもに関する専門的知識、技能を身につけ、子どもの視点に立って子どもの育ちを総合的に援助できる人材を育てる。

短期大学部…「学問を通して人間を作る教育」の実践を図り、知識や技術に偏重することなく、広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。



I. 法人の概要

1. 沿革

- 昭和15年(1940) 財団法人村上学園の設立認可
布施高等女学校の設置認可（創設者村上平一郎校長就任）
- 昭和16年(1941) 布施高等女学校開校
- 昭和22年(1947) 布施高等女学校附属中学校開校
- 昭和23年(1948) 布施学院高等学校に校名変更、私立双葉高等女学校を併合
- 昭和24年(1949) 布施女子高等学校・布施女子中学校に校名変更
- 昭和26年(1951) 学校法人村上学園に組織変更認可
- 昭和28年(1953) 布施女子高等学校附属幼稚園の設置認可（村上平一郎園長就任）開園
- 昭和38年(1963) 柏原女子高等学校の設置認可（村上平一郎校長就任）開校
- 昭和40年(1965) 布施女子短期大学家政科の設置認可（村上平一郎学長就任）開学
布施女子高等学校附属幼稚園を布施女子短期大学附属幼稚園に園名変更
- 昭和41年(1966) 布施女子短期大学保育科増設
- 昭和42年(1967) 布施女子高等学校・同中学校を東大阪高等学校・同中学校に校名変更
布施女子短期大学を東大阪短期大学に校名変更
布施女子短期大学附属幼稚園を東大阪短期大学附属幼稚園に園名変更
- 昭和43年(1968) 東大阪短期大学家政科を専攻分離し、家政学専攻・食物栄養学専攻とする
同家政科を家政学科に改称
- 昭和44年(1969) 同保育科を幼児教育学科に改称
- 昭和45年(1970) 同家政学科家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称
同幼児教育学科の学生募集停止、児童教育学科を増設
柏原高等学校女子部を廃止
- 昭和47年(1972) 東大阪中学校生徒募集停止
- 昭和48年(1973) 東大阪短期大学児童教育学科を初等教育学専攻・幼児教育学専攻に分離
- 昭和54年(1979) 同食物栄養学専攻を栄養士コース・食物学コースに分離
- 平成2年(1990) 同初等教育学専攻を初等教育コース・国際文化コースに分離
- 平成8年(1996) 同服飾デザイン専攻を服飾デザインコース・服飾文化コースに分離
- 平成12年(2000) 同家政学科に生活福祉専攻を設置、初等教育学専攻を廃止
- 平成13年(2001) 同家政学科のコースを廃止
- 平成14年(2002) 同服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に改称
同児童教育学科を廃止し、幼児教育学科を設置
- 平成15年(2003) 東大阪大学こども学部開学
東大阪大学開学に伴い東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部に校名変更
- 平成18年(2006) 東大阪大学短期大学部家政学科生活デザイン専攻の学生募集停止
同家政学科食物栄養学専攻を健康福祉学科健康栄養専攻に改称
同家政学科生活福祉専攻を健康福祉学科生活福祉専攻に改称
- 平成19年(2007) 同家政学科生活デザイン専攻廃止
- 平成22年(2010) 同健康福祉学科生活福祉専攻の学生募集停止
同健康福祉学科健康栄養専攻を健康栄養学科に改称
- 平成23年(2011) 東大阪大学短期大学部健康福祉学科生活福祉専攻廃止
東大阪大学こども学部アジアこども学科設置
- 平成25年(2013) 東大阪大学開学10周年記念事業開催
- 平成27年(2015) 東大阪大学短期大学部開学50周年記念事業開催



2. 法人事務局・学校所在地

法人事務局	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
大学・短期大学部	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
東大阪大学敬愛高等学校	〒577-8567	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1
東大阪大学柏原高等学校	〒582-0001	大阪府柏原市本郷 5 丁目 993
東大阪大学附属幼稚園	〒577-0044	大阪府東大阪市西堤学園町 3-1-1

3. 設置する学校・学部・学科及び学生生徒園児数（平成27年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒・園児数
東大阪大学	こども学部こども学科	250
	こども学部アジアこども学科	27
東大阪大学短期大学部	健康栄養学科	55
	幼児教育学科	145
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	803
東大阪大学柏原高等学校	普通科	779
東大阪大学附属幼稚園		256
合 計		2,315

4. 役員・教職員等の概要（平成27年5月1日現在）

- (1) 役員 理事 7人 幹事 2人
 (2) 評議員 15人
 (3) 教職員 347人

	教 員		事務職員		合 計
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	
法人部門	0	0	10	10	20
東大阪大学	26	29	16	8	79
東大阪大学短期大学部	26	23	16	6	71
東大阪大学敬愛高等学校	47	15	5	2	69
東大阪大学柏原高等学校	54	13	10	7	84
東大阪大学附属幼稚園	17	0	6	1	24
合 計	170	80	63	34	347



Ⅱ. 事業の概要

【東大阪大学】

[はじめに]

本ここ10年志願者数は徐々に減り、さらに回復傾向はなく深刻な状況である。

この間、18歳人口は減少したが、一方では大学進学率が上昇していることを見ると、大学への進学希望者は大きくは変化していない。一方、新設の大学や多くの学部が増加し競合校がひしめき合う状況になっている。この競争市場の中、本学志願者の減少は、本学が高校生やその保護者、高校の先生方等、受験関係者を惹きつける吸引力が低下していることによるものだと考えられる。本学の学科編成や学科カリキュラム、教育内容が、社会の急速な変化に追いついていなかったのではないかと謙虚に反省し、教育内容、教育体制の刷新とそれを執行できる組織体制を検討した。

大学は、大学経営面のあらゆる側面でスピード感を持って改革しなければならないのである。大学教職員が苦手とする経営面（学生確保に尽きるが）を意識し、学園創立理念に照らして本学の社会的存在意義を改めて考え、これからの社会をどのように進むべきかを明確にしなければならない。そのために、将来構想委員会を母体に、大学改革プロジェクトチームを組織し、本学の目指すビジョンを掲げ「入り口(入学)から出口(卒業)」さらに「社会人としての活躍」を見通した教育体制を整えるためにワーキンググループを編成し早急に改革できる組織づくりを編成した。各ワーキンググループでは28年度から実践を始める計画づくりに取り組んだ。

<本学の目指すビジョン>

1. 「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」

複雑で変化する社会を支え、発展させる人材を育成するために、基礎学力、豊かな教養、専門性と実践力を磨く教育が不可欠である。そのために、本学園のこれまでの伝統を土台に、「21世紀の社会を支え活躍できる人材の育成」を目指し、基礎学力と社会性を身に付けることができる教育課程を検討し、運営していくための基盤となる組織づくりをする。

2. 「自らの資質を向上させ、社会的、職業的自立を目指す」

基礎学力、社会人としての基礎力を徹底して教え、社会で通用する人間に育てる。そのために、キャリア教育、リメディアル教育、初年次教育のつながりを意識した充実したプログラム開発と実施内容を綿密に検討しその実施計画を策定する。

3. 「地域に根差した大学として、地域と繋がり貢献できる大学」

「大学と東大阪市との連携・協力に関する包括協定」を締結したのを機に、大学の特色を活かした地域発展のために貢献できる取り組みを具体化し運営できる組織づくりをする。



4. 「世界の人たち、地域の人たちとつながり社会で活躍できる人材」

国際化を進めグローバル人材を育成する大学として、大学のさらなる国際化をめざし、海外の人たちと共に学ぶ経験を豊かにする。本学学生の海外経験、異文化理解、語学力、就業力向上の強化を目指したプログラムと各種国際交流、海外研修、留学プログラムを拡充する。

(組織)

＜大学改革プロジェクトチーム＞

総括責任者（学長代行）

1. 入学者受け入れのための対策チーム
*入学者受け入れのための見直し
2. 就職充実のための対策チーム
(学生の基礎学力向上)
「**基盤教育研究センター**」の設置
3. 異文化、国際交流、地域貢献対策チーム
「**異文化研究交流センター**」設置
*留学生の学生生活の充実
東大阪市地域連携、地域貢献等を含めた取り組み
4. 学科、組織対策チーム
*改組、新学科編成・・・実践食物学科のコース分け
栄養士コース、製菓コース
実践介護福祉学科の設置

地域貢献研究活動の実績がある「**こども研究センター**」を含め、3つの研究センターを基盤に教育研究活動を進めていく。



[1] こども学部こども学科

1. 入学前教育

平成27年4月から入学予定の学生に対して、本学の卒業研究論文発表会・卒業研究発表演奏会のご案内を出し、4回生の学生による研究発表会にお越しいただきました。また、こども学科教員による入学後の授業に役立つ講義と実技授業を3月に3～6日間にわたって行いました。多数の入学前学生の参加がありました。



なお、平成28年度入学生については、平成28年3月7日（月）、8日（火）、10日（木）の3日間にわたり、下表により行われました。

日 程	こども学科	
3月7日（月）	受付 9号館1階ラウンジ 8:45から	
9:00～9:30 全体会	挨拶 吉岡学長代行 歓迎イベント（在学生 丹山ゼミ演奏）	9号館1階ラウンジ
9:45～10:30 講義Ⅰ	大学で何を学ぶのか 丹山学科長	932教室
10:40～12:10 講義Ⅱ	「豊かな言語体験としての絵本」 絵本に込められた作り手の思いに触れる 吉岡学長代行	932教室
13:00～14:30	「ピアノ講習会Ⅰ」 丹山学科長	941教室
3月8日（火）		
9:00～10:30 講義Ⅲ	「子どもの知的好奇心を育む」造形表現をとおして 谷口・菊岡・松村先生	943教室
10:40～12:10 講義Ⅳ	「英語を楽しもう」 栖原先生	731a教室
13:00～14:30	「ピアノ講習会Ⅱ」 丹山学科長	941教室
3月10日（木）		
9:00～10:30 講義Ⅴ	「子どもの心を読み解こう」 渡邊先生	932教室
10:40～12:10 講義Ⅵ	「こどもと自然」 梅田先生	932教室
13:00～14:30	「ピアノ講習会Ⅲ」 丹山学科長	941教室



2. 初年次教育

こども学科に入学をされた1回生の学生は、学内オリエンテーションを受講した後、平成27(2015)年4月4日～5日に学外オリエンテーションとして「新入生宿泊研修会」を実施いたしました。東大阪大学新入生全員、ガイダンスや交流会などを通して親睦を深める時間を過ごし、入学後の大学生活に関する事や実習について等キャンパススケジュールの確認をいたしました。初年次教育の取り組みとしてこれからの学生生活での不安を取り除き、コミュニケーション力を育てる大切な機会となりました。

3. カリキュラムの見直し

全学年のカリキュラムの見直しを行いました。4年間を通しての授業の開講時期・免許取得による授業の見直しを行い、ボランティア活動やインターンシップ、企業訪問等に主体的に取り組めるようにしました。また、新しい授業の取り入れや科目名を変更してカリキュラムの充実を実行しました。

4. 子どもに関する事を学んで、子どもとかかわる機会を得る

(1) 授業とこども研究センターとの連携

平成27(2015)年7月に本学のこども研究センター主催のこども応援ひろばパートIが開催されました。この行事にこども学科の学生が授業でこどもが参加できるゲームコーナーや一緒に遊んだり、考えたり、子どもが制作もできるコーナーを企画しました。企画から運営する事までを学び、グループでのコミュニケーションの取り方等、より多くの経験ができました。また、たくさんの親子に参加していただくことができました。授業を生かし、考え、グループワークを通して、計画、実施いたしました。



(2) 必修授業として附属幼稚園との連携

平成27(2015)年10月に開催された東大阪大学附属幼稚園の運動会にこども学部こども学科の1回生A組は必修授業として幼稚園実習の中で参加します。また、1回生B組は2月に実習に行き、参観日を体験させていただきこどもの現場を実体験してきます。

他に幼稚園の行事、バザーやボランティア等大学と連携してこどもをあらゆる視点から見る事のできる現場を提供いただいています。



5. キャリア向上のための授業の再編

新しく開講されたキャリア教育等、現在必要とされている授業科目の見直しをはかり、シラバスの充実をし、学生によりわかりやすく学んでいける教育の向上を目指しました。免許・資格取得による教育実習の内容も充実させ、授業以外でも専門教育教員による実習ノート の書き方や実践的な知識の把握も徹底しました。





[2] こども学部アジアこども学科

1. オープンキャンパス

7月12日、日曜日は第3回オープンキャンパスにて、アジアこども学科では、留学生による中国茶のサービスがありました。台湾で人気のケーキ「鳳梨酥」と中国で人気のお菓子「番餅」を用意しました。アジアこども学科の特別メニューコーナーにはたいてい親子連れのお客様が立ち寄っていただきました。



お客様とも楽しく談笑

2. 入学前教育

平成28年3月7日、8日、10日の3日間にわたって、平成28年度の入学生を対象に下表のとおり、入学前教育を行いました。

日 程	アジアこども学科	
3月7日(月) 受付	9号館1階ラウンジ 8:45から	
9:00~9:30 全体会	挨拶 吉岡学長代行 歓迎イベント(在学生 丹山ゼミ演奏)	9号館1階ラウンジ
9:45~10:30 講義Ⅰ	大学で何を学ぶのか 増田先生	934教室
10:40~12:10 講義Ⅱ	「豊かな言語体験としての絵本」 絵本に込められた作り手の思いに触れる	吉岡学長代行 932教室
3月8日(火)		
9:00~10:30 講義Ⅲ	「留学から学べること」 アジアこども学科の留学プログラム	大矢先生 934教室
10:40~12:10 講義Ⅳ	「英語を楽しもう」	栖原先生 731a教室
3月10日(木)		
9:00~10:30 講義Ⅴ	「国際化への対応」	井原先生 934教室
10:40~12:10 講義Ⅵ	「アジアを学ぼう」タイ語入門	清水先生 934教室

2. 「アジア地域文化研修」



新入生歓迎会に2人も参加

9月24日、アジア地域文化研修を終えて4回生1人と3回生1人が無事に帰国しました。アジアこども学科の学生が毎年研修させてもらっているのは、提携大学のスウィーパトゥム大学です。タイの首都バンコクにあります。

バンコクでは8月中ごろ事件がありました。本人たちの自主判断で決行された地域文化研修が無事に終わってよかったです。しかも収穫が大いにあったと2人が声を合わせて言っていたので、何よりでした。



3. 大学祭の模擬店

10月25日の学園祭で、アジアこども学科の1回生全員、2回生全員、そして力強い助っ人3回生が集い、黒豆きなこのあべかわもち店を開きました。力いっぱいやりきったアジアこども学科は、解散後、人気コンテストがあるなんて知らなかったのです。実は優勝しましたが、誰もいなかったもので、優勝賞金はもらえなかったのは残念でした。でも、達成感と友情を得たことは間違いありません。



いよいよ始まるどころ

4. アジアこども学研修（中国）

アジアこども学科2年生全員が参加する海外研修のための必修科目です。平成27年度は中国の青島、威海、蓬萊、煙台に行きました。

1日目には、降り立った地点は青島でした。歴史を紐解けば日本とのかかわりはとても濃い場所です。ドイツが1898年にここを極東における本拠地としたため、西洋風の家並みがあり、ドイツにより青島ビールが作られました。1937年から第二次世界大戦終結まで日本の占領下におかれましたので日本でも青島ビールのファンは今なお多いです。そして現在は近代的な港湾都市として発展しています。



青島で見つけたオリンピックの名残り

なったことは立ち寄り先の中国の方々の優しさです。国同士、政治家同士のお付き合いとは全く違う暖かい触れ合いを感じた研修でした。

研修4日目午前中に威海で訪問したのは、威海外語進修学院でした。副院長の時述済先生は日本語も英語も流暢で、特に日本語の優雅なしゃべり方はそのままお人柄をも表していました。副院長の提案で、東大阪大学の学生は1人ずつ別々の部屋で交流しました。学生たちは日本語学習者なので、私たち日本人は人気者でした。さまざまな質問を受けました。

楽しいことも困ったこともありましたが、何より思い出



威海外語進修学院の副院長を真ん中に



【東大阪大学短期大学部】

〔1〕健康栄養学科

1. 入学前教育・初年次教育・キャリア教育の実施

平成27年度入試合格者に対して、栄養士を目指す学生向けの書籍(めざせ!栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション、第一出版)を配付し、その中の課題(1週間の食事調査)に取り組みせる入学前教育を実施しました。さらに初年次教育として、本年度も入学直後に1泊2日で、宿泊研修(本年度は奈良県大和高原ボスコヴィラ)を行い、クラス全員のまとまりとモチベーションの維持を行うプログラムを実施しました。

また、本学が基礎学力向上を目指して取り組んでいる「キャリア教育」を1年次から履修させ、計算力、レポートの書き方などの基礎学力を養成するとともに、入学前教育で取り寄せた課題も取り入れながら、栄養士養成課程としての専門分野の学習へスムーズに移行できるようにしました。

なお、平成28年度入学生を対象に、平成28年3月7日、8日、10日の3日間にわたり、下表の通り入学前教育が行われました。

日 程	実践食物学科(平成28年度より学科名称変更)		
3月7日(月)	受付 9号館1階ラウンジ 8:45から		
9:00~9:30 全体会	挨拶 吉岡学長代行 歓迎イベント(在学生 丹山ゼミ演奏)		9号館1階ラウンジ
9:45~10:30 講義Ⅰ	短期大学で何を学ぶのか	源先生	966教室
10:40~12:10 講義Ⅱ	「科学の基礎知識」 高校までに学んだこと、大学で学ぶこと		源先生 966教室
3月8日(火)			
9:00~10:30 講義Ⅲ	「食生活と食文化の基礎知識」 食品の諸問題と栄養士の役割		富田先生 965教室
10:40~12:10 講義Ⅳ	「自分の食生活を知る」 食事バランスガイドを作ろう		山下先生 965教室
3月10日(木)			
9:00~10:30 講義Ⅴ	製菓実習		
10:40~12:10 講義Ⅵ	～季節のパウンドケーキ～	源・松本先生	814教室

2. 地域との連携強化による実践栄養

食文化や地域の産物を活かし、それらを利用して新しい料理に挑戦していくことは、健康作りを目指した食生活指針においても重要項目となっています。このため、各地の産物を授業の中に取り入れ、その産物についての知識を深め、実践力を養うとともに、地域の人たちにそれを提供したり、情報発信したりすることで、地域レベルでの健康と栄養についての知識と技術を伝える取り組みを実施しています。

(1) 地域連携による実践教育の取り組み

平成26年度から「キャリア教育」や「卒業研究」などの授業の中で”大阪なにわもん”を使った食品の開発に取り組んできましたが、平成27年12月より企画元である道の駅かなん（JA大阪南、大阪府富田林市）と東大阪大学短期大学部健康栄養学科の共同開発により『米粉パン』として販売が開始されました。



道の駅での販売の様子

(2) 産学連携の実践栄養

産学連携事業の一つとして、和橋テクノス株式会社（東京都港区）と本学が産学連携の覚書を締結し、企業における食品開発の実態及び食品に対する加工技術や保存技術の習得を目指す試みを行いました。具体的には、「給食管理実習（校内）」において、企業側から講師を派遣し、特別講義ならびに実習を行いました。本年度は、から揚げとポテトサラダへの食品添加物（保存料）を添加し、味の変化等についての実践教育を受けました。

(3) 高大連携による給食管理実習

高大連携の取り組みとして、「給食管理実習」の授業において、併設校である敬愛高校の製菓調理コースの生徒約150名に対して、給食提供を行いました。学外の方への提供は初めてということもありましたが、参加した高校生からのアンケートでは満足したとの回答が90%を超えました。今後もこのような高大連携による試みを行っていきたいと考えております。



給食実習室（食堂）の装飾と高校生への給食提供の様子



3. 実践栄養の情報発信

「USA ライスボールコンテスト」、「鉄人バランス弁当コンテスト」など、様々な団体が実施している各種の料理コンテストに参加しました。今後も積極的にこれらのコンテストへの参加を目指した献立作りに取り組み、学生一人ひとりへの実践教育を推進していきたいと考えております。

4. 実践栄養のカリキュラム検討

実践栄養教育の一環として、1年間にわたり卒業研究を行い、卒業発表会・展示会にて、その成果を発表しました。健康栄養学科のブログでも詳しく内容を紹介しています。

今後、実践栄養カリキュラムを導入し、さらなる実践栄養を検討しております。



卒業発表会及び展示会の様子



[2] 幼児教育学科

1. アドバイザー制の充実

アドバイザー制を導入することにより、これまでの担任制では充分に対応しきれない問題にも対応することができました。特に、教員全体で学生達とかかわることで、学生と教員との距離感が縮まり、教員も個々の学生についての理解を深めることができ、学生たちも履修や実習での相談を積極的にするようになってきました。今年度から必修となった卒業研究発表も、学科のアドバイザー全員で担当することとし、学生たちに、「書く力」「調べる力」「発表する力」の基礎をつけていくことができました。

2. 入学前教育の実施

入学前教育を充実させ、大学での授業に興味を持ってもらうための模擬授業を行いました。また、学科の特性の一つでもあるピアノ教育についても全体指導や希望者のための講習会を実施し、入学予定者と学科教員が一緒になって、花壇への植栽などを行いました。

平成28年度入学生対象入学前教育

日 程	実践保育学科（平成28年度より学科名称変更）		
3月7日（月） 受付 9号館1階ラウンジ 8:45から			
9:00～9:30 全体会	挨拶 吉岡学長代行 歓迎イベント（在学生 丹山ゼミ演奏）		9号館1階ラウンジ
9:45～10:30 講義Ⅰ	短期大学で何を学ぶのか 永久学科長		966教室
10:40～12:10 講義Ⅱ	「言葉の発達と子どものあそび」 ことばあそびを知る 永久学科長 「楽譜の読み方入門」 篠原・平松先生		122教室 2号館音楽棟
13:00～14:30	「ピアノ講習会Ⅰ」 篠原・平松先生		2号館音楽棟
3月8日（火）			
9:00～10:30 講義Ⅲ	「児童文化について学ぶ」* 保育教材を作ってみよう！ 古田先生		122教室
10:40～12:10 講義Ⅳ	「保育音楽入門」* ピアノに触れてみよう！① 篠原・平松先生		2号館音楽棟
13:00～14:30	「ピアノ講習会Ⅱ」 篠原・平松先生		2号館音楽棟
3月10日（木）			
9:00～10:30 講義Ⅴ	「子どものあそび活動を学ぶ」* 保育あそびを実践しよう！ 後藤先生		131教室
10:40～12:10 講義Ⅵ	「保育音楽入門」* ピアノに触れてみよう！② 篠原・平松先生		2号館音楽棟
13:00～14:30	「ピアノ講習会Ⅲ」 篠原・平松先生		2号館音楽棟

*（2クラス入れ替え制）

3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施

新入生を早く大学生活に慣れさせるために一泊二日の宿泊オリエンテーションを実施。



資格取得に向けての手立てや大学での学習の心得などを一泊二日の宿泊オリエンテーションで指導しました。新入生同士の親睦を深めることができるように留意したことにより、大学生活になじみやすい環境もできました。

4. 資格取得について

現在は、幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の取得が可能になっていますが、全員がこれらの4つの資格をすべて取得し、卒業していくわけではなく、資格を2つ、または1つしか取得せず、あるいは資格を取得しないまま卒業して行く学生もいました。

5. 学生の学習状況について

幼児教育学科では、できる限り学生が幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の4種類の資格をすべて取得するように指導してきました。

認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、幼稚園教諭2種免許状、保育士証の2つの免許・資格が必要であることを学生たちには、新入生宿泊オリエンテーションや、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をしてきました。また、今年からは2年間の学業の集大成として、クラス単位での卒業研究発表を、近隣幼稚園や保育所の園児を招待して実施しました。

6. 施設の課題について

老朽化の校舎の解体、建て替えに伴い、学科の備品や指導教室の移動等が生じましたが、学科教員の努力により、1号館の有効利用ができるようになりました。特に1号館3階の舞台のある部屋を使っての卒業研究発表ができるようになり、学生たちにとってより充実した教育環境づくりが少しずつではありますができてきています。



1号館3階舞台での卒業研究発表

7. 開学50周年への取り組み

平成27年度には短期大学部は開学50周年を迎えましたが、開学50周年記念としての特別公開講座を実施。元厚労省専門官で、仁愛大学の西村重稀教授が「新しい教育・保育制度において求められる保育者像」というテーマでの基調講演を行っていただき、本学科の学科長が「小学校へとつなげる親子のあそび」というテーマでの実技講習を行いました。200名近い参加者がありましたが、参加くださった方々からは好評をいただきました。

また、附属幼稚園とのコラボとしてのランタン作りを実施し、七夕まつりでランタンを学内に飾り点燈しましたが、近隣の人たちにも楽しんでもらうことができ、こちらも好評でした。



七夕祭りの飾りつけ



【大学・短期大学部共通】

〔1〕 教学部（教務担当）

1. 教室の運用見直し

敬愛高等学校耐震改修工事に伴い7号館が平成27年度いっぱいで使用できなくなることから、8号館、9号館の教室の一部に改修工事が実施され、情報関係の一部の授業を除いて7号館で行ってきた授業を8号館、9号館の教室に移行する必要が生じました。

このため、教員の希望に答えながら、プロジェクタ、D
VD・ブルーレイ等の教材使用、語学授業におけるコンピ
ュータ使用に対応した機器等の効率的に活用ができるよう注
意を払って、新たな教室の運用と割り振りを行いました。



改修工事に伴い明るくなった8号館
学生ラウンジ

2. 開講科目及び時間割について

専任教員による充実した授業を実施するために平成26年度の履修登録者数を参考に、科目を選択する際に学生に不利が出ないことを前提として、履修者数が極端に少ない科目については不開講とし、非常勤講師に委嘱していた科目についても、可能な限り専任教員が担当するようにしました。

さらに、楔型履修方式で学年進行に伴い、徐々に教養科目が減少し専門科目が増加するような授業編成にするために開講年次に配慮するとともに、科目名やシラバス内容を担当教員らと再検討し、学生のニーズと社会のニーズに応えるようなカリキュラムを作成することができました。

3. 実習指導について

各担当教員と事前・事後の実習指導について細心の注意をもってあたり、途中辞退者の減少に努めました。また、短期大学部の保育実習、幼稚園教育実習、小学校実習（栄養）、中学校実習（家庭）等の実施日を変更し、後期開始日を早めるなどして、土曜日授業を可能な限り減らすことで、より充実した実習指導を行うことができるようになりました。

4. 大学コンソーシアム大阪について

大学コンソーシアム大阪の単位互換事業として、他大学の学生を受け入れました。

学 期	科 目	所属大学	人 数	単位認定者数
前期	流通政策論	近畿大学	5名	2名
後期	こども学Ⅱ	近畿大学	7名	4名



5. 公開講座の実施

地域連携を図り、本学の社会的責務を果たすために、3回の公開講座を実施しました。

- (1) 9/27 (日)：東大阪大学短期大学部開学50周年記念特別公開講座「地域の食材を生かした食育」
- (2) 10/12 (祝・月)：「いまマスコミでは—新聞記者の現場から—」「食品流通論から学ぶ—かしこい買物学から—」
- (3) 11/1(日)：東大阪大学短期大学部開学50周年記念特別公開講座「これからの保育・幼児教育を考える」



6. 教員免許状更新講習認定講座の開催

8月17日(月)から21日(金)の5日間にわたって行われた『教員免許状更新講習認定講座』には、必修領域に149名、選択領域に507名と延べ656名の受講者がありました。

大阪府下からの参加が多かったのですが、奈良県や兵庫県からの参加も沢山ありました。中には、旅館に宿泊して参加という方もいました。

参加された先生方の感想の中には、「母校で、教員免許状更新講習認定講座を受けることができ感無量です。」とか「自分の指導方法に自信を持ちました。」「勉強することの大切さを再認識しました。」「2学期からすぐに使える教材を教えていただき、2学期が待ち遠しいです。」と感謝の気持ちを表すものが多かったです。「後輩にも、東大阪大学を薦めます。」の言葉には、こちらの方が感謝の気持ちでいっぱいになりました。

また、授業を担当した教員からは、今年も「受講者の聴く姿勢やメモを取る姿に、つつい力が入った。」とか「時間が足りなかった。もっとやりたかった」等、燃えさせるものがあつたようです。

そして、この講座を4年間続けて行ってきたことによって、東大阪大学のことを大阪府下の先生方に限らず、奈良県や兵庫県を初め全国の先生方に知ってもらうことができたと考えています。平成24年度から4年続けての講座開講となりましたが、回を重ねるごとに内容も充実していき、受講者の数も増えています。

5年目となります平成28年度も、すでに「平成28年度東大阪大学教員免許状更新講習認定講座」の募集をしておりますが、さらに、よりよいものを目指して討議を重ねており、一人でも多くの方が、東大阪大学で受講されることを願っております。

受講された先生方を初め、教育現場で頑張っておられる先生方が、子どもたちの学習意欲を大切にしながら、自らの目指す教育実践を積み上げていかれることを願っております。

7. 高大連携について

東大阪大学敬愛高等学校、東大阪大学柏原高等学校並びに大阪府立布施北高等学校との高大連携授業を実施しました。



[2] 教学部（学生担当）

1. 社会のルールや人との約束を守れる人物に

2015年度は、本学の学生が社会のルールや人との約束を守れる人物になるよう、教職員はもとより、学生相互間での挨拶や声掛けを行い、LINE等のSNSの使用の際のマナー、喫煙マナー、自転車の安全運転義務違反についての周知、迷惑駐車などの交通マナーをはじめとする、全体的な規範意識の向上をめざし、高い規律性を醸成できるように指導をしてきました。

具体的には、4月のオリエンテーションにおいて学生指導の時間を設け、キャンパスガイド・カレッジガイドのほか、キャンパスライフでの注意事項をまとめた冊子「2015年度 学生のみなさんへ」等を配付し、学生生活についての指導を行いました。

また、主に4月から5月にかけて学生担当の教職員が交代で正門に立ち、交通マナーの指導、挨拶や声掛けを行ったり、大学周辺を巡回し迷惑駐車や駐輪の指導を行ったり、学園祭時期には学生会・学友会に所属する学生とともに、大学周辺の警備巡回を行いました。

上記のような指導によって一定の効果はありましたが、まだまだ、学内での電源の無断使用や、周辺の皆様からの迷惑駐車などに対する苦情を受ける等、本学学生のマナーの悪さ、規範意識の低さが払拭されていない状況もあり、今後も継続的に指導を続けていきます。

2. 学園祭を通じて地域社会とのつながりを

2015年度は短期大学部の開学50周年を迎えて、「翔愛祭」のテーマを「飛翔」と決め、10月25日（日）に開催されました。開学50周年の記念事業の一環としての50周年関連ブース、風船飛ばし、ライトアップ等の企画を充実し、地域連携を進めるような大学祭を実施した。特に、学園祭実施の周知に力を入れ、開催前から地域に向けての広報活動を行いました。これにより、学祭実行委員会やその他学祭に模擬店等で参加したメンバーが、普段経験のできない社会人としての経験をすることができ、自主的な活動及び企画力を醸成できました。

3. 年中行事に合わせた学生会・学友会による企画

例年、入学式、七夕やクリスマスに合わせ、学生会・学友会が企画した新入生歓迎会等を行いました。特に、短期大学部50周年が盛り上がるよう電飾を追加購入し、クリスマスの時期に、さらに盛り上げた電飾を9号館ラウンジに設置しました。今年度も、情報教育センターの協力で正門の植え込みに規模の大きい電飾とツリーを設置し、点灯式を実施しました。本学がこの時期に電飾を設置していることが、徐々に近隣の住民に周知できてきているようです。



クリスマスパーティーの様子

4. ボランティア活動等の充実

本学に依頼あったボランティアのうち、就職につながるボランティアについては、各学科の該



当科目担当の専任教員に配布し、学生に紹介するよう依頼しています。その他の依頼については教学支援課学生担当が内容確認の上、相応しいものについては8号館1階ラウンジに掲示板を設置し、掲示しています。

また、人形劇部「ブロッサム」等本学のクラブに宛てての公演依頼が来ています。地域の小学校、幼稚園、保育所等からの依頼により人形劇部「ブロッサム」等がボランティアとして公演を行い、好評を博しました。2015年度の人形劇部の主な活動先として、4月の念仏寺と12月のユトリート東大阪で公演を行いました。

5. クラブ活動について

2015年度各クラブの部員数は、次のとおりです。

文科系クラブ (6クラブ)

体育会系クラブ (7クラブ)

クラブ名	顧問	部員数	クラブ名	顧問	部員数
ダンス	渡邊ルリ	5	空手道	野々村宜博	8
文芸	渡邊ルリ	0	フットサル	谷口 卓	2
絵本	渡邊ルリ	0	バスケットボール	竹中美香	20
人形劇 (ブロッサム)	川瀬弘樹	5	バドミントン	野々村宜博	14
フォークソング	谷口勝英	11	バレーボール	平井正三郎	8
ブラスバンド	丹山三恵子	0	軟式野球	後藤由美	8
			陸上競技	柿内貞宣	15

2015年度は、クラブ数が13クラブ、総部員数が96名となりました。

○大会結果

公式大会における目立った記録としては別表のとおり、本学陸上競技部が、日本陸上競技選手権大会等の全国大会において、素晴らしい成績を残してくれました。

特に、大学こども学部アジアこども学科1年の津田シェリアイさんは、2015日本学生陸上競技個人選手権において大会記録で優勝し、アジア大会の日本代表選手として選ばれました。

今後のますますの活躍が期待されます。

2015年 陸上競技部 陸上競技会 全国大会 3位以上入賞者結果報告書

大会名:第31回静岡国際陸上競技大会				
開催年月日:2015年5月3日(日)			場所:静岡・エコパ	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS1	1m81	優勝



大会名:第99回日本陸上競技選手権大会				
開催年月日:2015年6月26日(金)			場所:新潟・ビックスワン	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS1	1m78	3位

大会名:2015 日本学生陸上競技個人選手権				
開催年月日:2015年6月14日(日)			場所:神奈川県 Shonan BMW スタジアム平塚	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS1	1m81	優勝=大会記録

※この大会の結果で、アジア大会日本代表選手に選ばれました。

大会名:第21回アジア陸上競技選手権大会				
開催年月日:2015年6月3日(水)			場所:中国・武漢	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS1	NM	—

大会名:天皇賜盃 第84回日本学生陸上競技対校選手権大会				
月日:2015年9月11日(金)			場所:ヤンマーフィールド長居	
種目	氏名	学年	記録	順位
円盤投	中山 和子	KE2	45m75	3位

大会名:第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会				
開催年月日:2015年10月16日(金)			場所:愛知・瑞穂運動場	
種目	氏名	学年	記録	順位
走高跳	津田 シェリアイ	AS1	1m70	3位



2015 日本学生陸上競技個人選手権
走高跳 津田 シェリアイ さん



第84回日本学生陸上競技対校選手権大会
円盤投 中山 和子さん



[3] 入試広報部

1. 入試制度

本学で学びたいという意欲ある学生を受け入れるため、入試制度について下記変更を行いました。

- ◇特別協定校をこれまでの17校から19校に2校増やしました。
- ◇AO入試を受験しやすくするために、これまでエントリーシートで一次審査、本出願で2次審査していたのを、エントリーシートは受理という形に変更し、本出願のみで合否判定するようにしました。
- ◇留学生試験を受験しやすくするため、これまで学習計画書と面接で合否判定していたのを、学習計画書は自己推薦書という形に変更して面接時の参考資料とし、合否判定は面接だけで行うことにしました。

2. 広報活動

広報活動については、学内関係部署と連携を図りながら、効果的かつ効率的な情報発信を行いました。また、ホームページや各種広報媒体、ダイレクトメールなどによる情報発信、高校相談会への参加や高校訪問を通じて本学の魅力や特色を直接的、間接的に受験生、保護者、高校教師に伝える活動を展開しました。具体的には、次のような広報活動に取り組みました。

- ◇大学・短大案内は高校生が興味を持ってくれる内容にするため、写真を増やして、わかりやすい表現にしました。また、各学科のカリキュラムや就職データなどの広報資料も作成しました。
- ◇各種広報媒体については、費用対効果を考慮して、実施媒体を厳選しました。今年度は新たに(株)エデュースにコンサルタント業務を委託しました。
- ◇会場式相談会や高等学校内進学説明会への参加については重要度の高い高校を優先したほか、本学教員による高等学校等への模擬授業には積極的に参加しました。
- ◇高等学校等への訪問については一年を通して実施しており、近畿2府4県と三重県、福井県を重点地域とするほか、オープンキャンパスに参加のあった九州、中国、四国、北陸地域の高校にも訪問し、本学の概要や学部、学科の紹介、入試やオープンキャンパスの案内などを行いました。
- ◇情報教育センター等関係部署と連携して、ホームページによる情報発信を行ったほか、(株)エデュース作成のWeb広告など電子媒体による広報活動も行いました。

3. オープンキャンパス

開催日数を昨年度の7回から今年度は9回に変更しましたが、参加者は8名増加に留まりました。しかし、株式会社エデュースの支援を受けて下記イベントを行い、昨年度よりは内容が充実したオープンキャンパスとなりました。

- ・学科説明会、学科のミニ体験授業や特別プログラム
- ・学科個別相談、入試相談や入試対策説明会
- ・学生スタッフによるキャンパスツアー



ミニ体験授業風景



個別相談風景

4. 高等学校教員対象入試説明会の開催

大学・短大をアピールして受験生増につなげるため、シェラトン都ホテル大阪において高等学校等の進路指導担当教員に対する大学説明会を開催したところ、41校の参加がありました。大学・短大の学科説明の後、参加者と円卓形式で和やかな雰囲気懇談会を行い、相互理解や情報交換などを促進することができました。

5. 入試結果

今年度の入試結果を下表に示します。今年度は全学科において定員割れとなっています。広報活動は昨年度よりレベルアップしたと思われますが、資料請求が昨年度より約1,100件減少していることや、これまで本学を受験してくれていた特別協定校や指定校からの受験者数が減少していることなどを考慮すると、本学に対する関心度が低下していると思われます。

本学の魅力や特色をどのようにアピールしていくか、再検討が迫られます。

	受験者数	合格者数	入学者数	入学者数昨年度比
こども学科	67	66	57 (注)	-1
アジアこども学科	11	11	11	6
大学合計	78	77	68	5
実践食物学科	31	31	29	3
実践保育学科	52	52	50	-32
短大合計	83	83	79	-29
大学・短大合計	161	160	147	-24

(注) 編入者はこども学科のみ4名いるが、この4名は集計結果から除いています。



【4】 図書館

2015年度の入館者数は、教職員を含めて4,192人、延べ貸出し冊数は、1,743冊でした。
2015年度推進してきた事業としては、次のとおりです。

1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供

(1) より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2015年度も引き続き「辞書・事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「アンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきました。

その結果、2015年度末までの「辞書・事典類」は計2,415冊となり、「アンデルセン絵本コレクション」は前年度より17冊増え、合計34カ国416冊となっています。

当該コレクションの構築は長期にわたって継続収集する必要がありますが、予算の削減は冊数及びテーマの拡充に影響を与えています。

(2) 2015年度末までの蔵書数は以下のとおりです（括弧内は前年度末の数字）。

和書 71,636冊 (69,269) 洋書 6,237冊 (6,156)
雑誌 607誌 (608) AV資料 3,609点 (3,586)

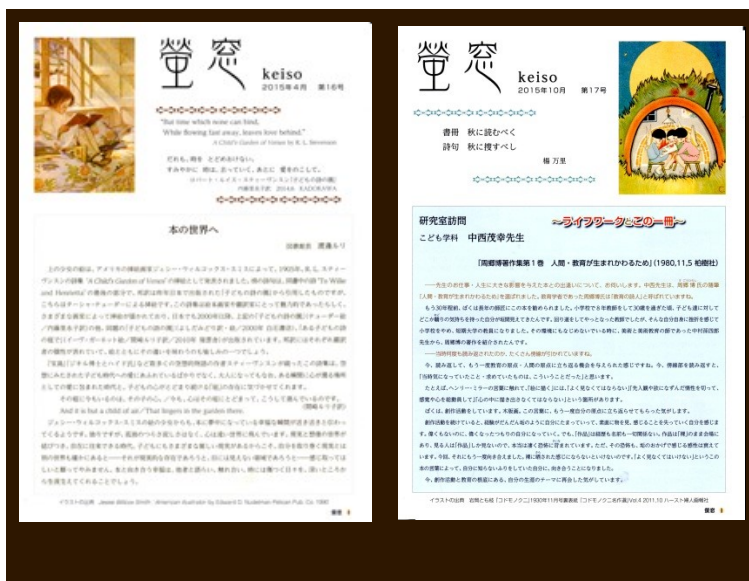
雑誌の誌数を除けば、いずれも前年度より増えています。特に和書は、厳しい財務状況のなか、2,094冊余りの増加がありました。和・洋書の合計は、現在7万冊を超えています。勿論、私立単科大学附属図書館の114,248冊の平均蔵書数（『平成25年度学術情報基盤実態調査結果報告』、文部科学省研究振興局情報課、2014年3月）と比較すれば、まだ相当な距離があり、更なる努力が求められています。

2. 図書館各種企画事業

2015年度も、学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記のとおり実施しました。

(1) 図書館通信「螢窓」

予定どおり4月に春号、10月に秋号を発行しました。連載「ワールド訪書の旅」は12回目を迎えています。



『螢窓』第16号・第17号



(2) 学生による選書ツアー

参加者最大20名、年2回の実施予定で、春学期(前期)の選書ツアーは8名の学生の参加で、ジュンク堂書店にて行われました。

参加者には図書館オリジナルデザインの記念品とQuoカード(額面500円)を贈呈しました。

今年度の学生による選書も、図書館員の選定を経て2階特別展示コーナー及び1階閲覧室の専用コーナーに配架しました。



2015年度学生選書ツアー(2015.6.17)

(3) 読書コンクール

2015年度は応募が1件のみだったので、審査は行わず、応募者は参加賞とのみしました。

3. 急を要する配慮事項

(1) 蔵書収納スペースの確保

現在、蔵書に対して収納スペースが狭隘となり、配架不可能な書籍が200個以上の段ボール箱に収納されている状態です。この書籍の閲覧・貸出し手続きが非常に困難である上、新たな蔵書の整理も円滑に進まないため、新たな書架スペースを確保する必要があります。

(2) セキュリティー装置の導入

2015年度蔵書点検の結果、新たに不明本21冊が発覚し、累積経年不明本は1,920冊に達しました。セキュリティー装置の導入の緊急性を改めて認識させられます。

以前にも指摘しましたが、セキュリティー装置の未整備のため、懸案の地域社会貢献の一環としての外部開放計画も推進できない状態にあります。

(3) 図書館システムの更新

現在使用中の図書館システムは既にリース切れとなり、老朽化及び不具合によるトラブルも頻発していました。この改善と図書館業務の円滑な運営のため、新システム導入を要請し許可されました。平成27年3月に新システムに移行し、平成27年度以降新システムの稼働中です。前期は順調に稼働し、インターフェース等よりよいサービスを提供しておりましたが、インフラ環境の老朽化により後期より度々停止するようになり、改善に向けて努力しています。



[5] キャリアサポートセンター

1. 就職支援対策講座

学外の講師を招き、①小学校教員採用試験対策講座及び②就職試験対策講座を実施しました。講座の内容は主に①では前期に2次試験対策、②では履歴書やエントリーシートの書き方、ビジネスマナー、面接対策、パソコン講座などでした。

2. 就職活動支援

各種就職フェアのチラシを掲示板に貼付し、学生へ周知しました。また、重要なフェアについては学内メールで周知し、参加誘導を図りました。

- (1) 企業やその他就職先の担当者を本学に招いての説明会（日本保育サービス、テストィパル、エイジェック等）を行いました。
- (2) 本学卒業生が就職している施設（天王福祉会）の見学会を実施しました。

3. キャリア教育支援

キャリア教育の一環としてインターンシップ実習を支援しました。具体的には、大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所、野村證券、私立幼稚園、その他民間企業の窓口として、インターンシップ実習を支援・促進しました。ただ、残念ながら今年度の参加者はありませんでした。

4. 就職先の開拓

学生の就職先を拡充するために、①6月に幼稚園、保育園、施設、企業に本学求人票の書式を郵送し求人依頼を実施しました。②各種就職フェアに参加し情報収集し求人先を広げました。③東大阪商工会議所主催の企業と大学との打合せ会や大学新聞社主催の会に参加し、大学・短大を紹介して求人情報の収集を行いました。

5. 進路指導・相談

就職ガイダンスや就職状況説明会、就職先紹介などを適宜行い、学生に就職情報を提供するとともに、就職活動に関する個別指導（書類作成、面接対策など）・相談などの就職支援を日常業務として行いました。

〈平成27年度就職・進学状況〉

	学 科	就職希望者の就職率 (%)			進学 (名)
		男 性	女 性	合 計	
大 学	こども学科	86.1	95.0	89.3	2
	アジアこども学科	71.4	00.0	62.5	0
	合計	83.7	90.5	85.9	2
短期大学部	健康栄養学科	100.0	86.7	89.5	5
	幼児教育学科	80.0	87.8	87.0	3
	合 計	88.9	87.5	87.7	8



[6] 海外交流室

1. 海外研修の支援

アジアこども学科では、平成27(2015)年11月に教員2名の引率の下、今年も「アジアこども学研修」を実施し、中国山東省を訪れ、各種施設見学及び中国の学生との交流を行いました。

なお、本来はタイのシーパトム大学で研修を行う予定でしたが、タイでテロ事件が起き、諸般の事情を考案し、研修先を中国に変更した次第です。

2. 留学生のためのチューター制度の実施

平成27(2015)年4月入学の留学生5名のために、チューターとして日本人学生5名を選び、留学生の学生生活支援を行い、日本人学生と留学生との親睦を図りました。

3. 留学生の学生生活支援活動

留学生の学生生活を支援するために、①在留資格「留学」の資格更新のための申請書類作成、②日本学生支援機構やその他機関による学習奨励費（奨学金）の募集、決定の事務処理を日常業務として行いました。

4. 南京曉莊学院との交流提携

平成27(2015)年6月に本学の関係者が中国の南京曉莊学院を訪れ、教職員・学生交流及び国際こども学シンポジウムの開催を含む学術研究協力について、南京曉莊学院の責任者と協議し、両大学の交流を推進する協定書を作成し、調印しました。現在17の学院(学部)を擁し、本科在籍学生数15,700人の総合公立大学となっている南京曉莊学院の前身は、1927年3月に近代中国の著名な教育者陶行知によって設立

された「曉莊試験郷村師範学校」でした。殊に教員養成を特色とする教師教育学院は、その質の高さは中国でも屈指レベルで、数々の優秀賞を獲得して内外から評価されています。



南京曉莊学院との協定書調印式

5. 留学生募集広報活動

学生募集の窓口である入試広報部と協力して、留学生募集のために日本語学校やその他会場で開催される「留学生進路説明会」に海外交流室の教員が参加して、募集活動を行い、一定の成果を挙げることができました。



〔7〕情報教育センター

東大阪キャンパス校舎改築に伴い、センター機能の移設についての計画を策定し準備作業に取り組んでいます。昨年度と同様に本学の現状における問題点としては、インターネット回線が遅く、高校、大学で同時にPC教室を利用した場合、課題をメールで回収するにも困難な状況が発生しています。そのため、キャンパスネットワーク内のボトルネック部分を調査するとともに、事務系ネットワークと教育系ネットワークのインターネット接続の分離を念頭に、回線増設を引き続き考える必要があります。

現在学生が使えるPCが少ないために、ICT環境の整備とそれに関する教育の充実を推進していきます。

1. 平成28年度新生にPC購入計画成立

学生が自由に利用できるコンピュータ環境が非常に少なく、学生のコンピュータ所持率も低いことから、平成27年度に次年度から大学と短期大学部新生全員対象にPC購入を推奨させる計画が成立しました。

2. 在学生が自由に使えるPC環境の拡充

卒業記念品として、在学生等に貸出できるPCや、普通教室でインターネットを利用可能にするために無線ルーターを購入しました。

3. 学生支援の一環としてOfficeの配布計画

学生全員が無償でOfficeを利用できるようにライセンス購入形態を変更しました。

4. Eラーニングの充実に向けての準備

環境整備が必要と思われます。教室の開放や学生個人のコンピュータ購入など多角的に検討することが急務であると考えられます。現在設置しているEラーニング環境を拡充し、なおかつ教材と管理が容易となる無償Eラーニング環境のグーグルクラスルームについてFD研修会を行いました。次年度からはなるべくすべての科目で利用できるように、情報教育センターは研修会を行い、サポートをする方針です。

5. ICT教育充実させるためカリキュラム編成

学内で使用するICTに関係する初年次教育を行う科目「情報処理論」を全学科、前期に開講するよう、カリキュラム編成を行いました。

6. キャンパスネットワークの安全確保

学内及び東大阪キャンパス内の敬愛高等学校及び附属幼稚園のネットワーク及び各端末についての保守業務を行っています。現在のところ学内端末に関しての安全は保たれていますが、絶えず外部からのポートスキャンや攻撃に対して監視を行っています。

7. 情報共有の徹底化

各部門内及び部門間において情報共有を推進しました。しかしながら、当初の目標を達成できていない点から見ると、共有の方法、意味、利点等、目的を明確にした上でガイドラインの作成が必要だと思われます。



【8】保健センター

保健室及び学生相談室の活用について、より多くの学生・教職員に周知を図るよう努めました。また、学生の状況に応じて、事例研究・支援の進め方について密に協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献しました。

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制をとっています。基本的な活動として、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動 などがあります。学生相談室と連携し、例年通り保護者面談を入学の式当日及び当初に実施し、心身両面における相談にのり、校医・教職員と連携して入学後のより良い学生支援に繋がりました。

新入生オリエンテーション時に、新入生とのつながり・関わりをもつため保健センター員の紹介をする場を設け、心身両面にわたって学生が保健センターを利用しやすいような環境整備を図りました。

また、啓発活動として学生・教職員のより良い支援を目指すため、保健センター通信「NEWS LETTER」(下図参照)を発行しました。掲示とともに全教職員・学生宛にEメールで配信してきましたが、アクセスして閲覧する学生も少なかったことから、今年度より全教職員・学生に配布しました。来年度も継続していく予定です。



1. 保健室

保健室では、学生・教職員の健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置をはじめ、健康診断証明書の作成、学生・教員健診のデータ管理、学生教育研究災害障害保険の手続き、各種業務統計及び各種届出等を担いました。また、学生が利用しやすい場所に設置されているため、その他学生生活に関する様々な窓口としての役割に努めました(利用状況は次頁参照)。



1. 保健室利用状況 (平成28年2月24日現在)

(1) 短期大学部

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	15	4	10	7	0	0	3	0	3	1	0		43
	外科系	4	7	7	3	0	0	4	4	2	1	0		32
	健康相談・他	14	16	58	6	0	1	2	1	10	13	0		121
2年次	内科系	2	1	11	0	0	3	0	0	4	2	0		23
	外科系	2	2	0	2	0	0	1	1	2	0	0		10
	健康相談・他	13	8	4	5	0	0	5	2	1	7	0		45
計		50	38	90	23	0	4	15	8	22	24	0		274

他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他

(2) 大学

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	13	7	7	3	0	0	2	5	2	1	2		42
	外科系	4	2	8	2	0	0	2	5	0	0	0		23
	健康相談・他	8	30	9	5	0	1	7	3	1	3	0		67
2年次	内科系	2	1	3	3	0	0	0	2	13	5	0		29
	外科系	1	0	2	2	1	0	3	0	0	0	0		9
	健康相談・他	18	6	0	2	0	0	0	9	22	0	0		57
3年次	内科系	4	0	2	0	0	0	2	4	4	2	0		18
	外科系	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0		5
	健康相談・他	26	7	6	3	0	0	6	2	2	1	0		53
4年次	内科系	5	0	3	3	0	0	2	1	4	1	0		19
	外科系	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1		4
	健康相談・他	3	11	18	12	0	0	1	0	7	1	1		54
計		85	65	60	36	1	1	25	33	56	14	4		380

短大・大学／合計	135	103	150	59	1	5	40	41	78	38	4			654
----------	-----	-----	-----	----	---	---	----	----	----	----	---	--	--	-----

他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他

(3) 教職員・他

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数		2	5	11	3	4	2	16	3	3	8	1		58

他：附属校・来学者等

(1) 健康診断

学生・教職員を対象として法令に基づく定期健康診断を実施しました。また、健診実施に関する問題点を明確にし、健診業者の選定を行い健診実施・事後措置において綿密な協議に努めました。

(2) 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷、疾病に対する応急処置を実施しました。学内消毒液設置に関する担当部署を精査し、感染症予防対策を図りました。

(3) 啓発活動

保健室主催事業として禁煙啓発活動(6月)での禁煙イベント(27名参加)、禁煙サポート(9名希望)など、保健活動及び指導を必要に応じ実施しました。



2. 学生相談室

入学式・新入生へのオリエンテーション等で、学生相談室の案内・活用に向けた説明をする時間を設け、カウンセリング希望の新入生に心理的な抵抗を少なくするように働きかけ、学生相談室へいざなう活動を続けています。また、「ティーアワー」を適宜開設し、学生相談室の利用が広がる活動にも継続して取り組みました。顔見知りだけでなく学年や学科を超えて、初対面の学生と歓談する様子も窺うことができました。その他、学生相談室の周知活動に力を入れるため、①入学式当日のチラシ配布、②オリエンテーション時の相談室の説明及び葉の配布の徹底等を引き続き計画・実施しました。

さらに、職場のメンタルヘルス対策が急務となっている社会的現状を踏まえ、担任等、教職員個人に集中しがちな学生援助の負担を、各部署と連携し分担することで軽減を図るよう努めました（利用状況は下記参照）。

2. 相談室来談状況（平成28年2月24日現在）

（1）月別来談者数

短期大学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年	4	27	6	1	0	0	0	0	1	0	0		39
2年	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0		3
計	4	27	8	1	0	1	0	0	1	0	0		42

大学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年	11	20	37	9	0	0	9	11	6	9	0		112
2年	7	10	5	11	0	0	1	0	1	0	0		35
3年	22	17	6	17	0	0	12	0	1	0	4		79
4年	12	2	4	18	0	2	2	0	11	7	1		59
計	52	49	52	55	0	2	24	11	19	16	5		285

<その他>

メール・電話	10	5	10	8	0	3	5	0	0	0	0		41
履修生・保護者等	5	5	9	8	0	6	14	0	0	1	0		48
計	15	10	19	16	0	9	19	0	0	1	0		89

総合計	71	86	79	72	0	12	43	11	20	17	5		416
-----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	---	--	-----

延べ面接回数 416回

実人数 96名

（学生のみ、メールは除く）

（2）内容別相談者数

内容項目	修学	進路	就職	クラブ	適応	性格	対人	恋愛	家庭	テスト	アルバイト	宗教	その他
来談者数	47	23	16	12	19	17	25	11	20	7	20	1	7

（内容複数ある場合、複数カウントしてあります）

内容項目	心理テスト
来談者数	11



[9] こども研究センター

1. 「こども広場」(月曜日～金曜日)

地域の親子が利用し(予約制 定員親子20組25名)、子どもと親が楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを工夫し、実践研究しました。手作りおやつ提供、手作りパン作り、製作、ふれあい遊び、身体測定、絵本の読み聞かせなどを毎月ごとに工夫し、提供しました。

(1) 手作りおやつ

日にち	内容	組数
4月15日、16日、17日、27日、28日	豆乳バナナきなこパンケーキ	80組 118名
5月7日、8日、11日、12日、13日	じゃこトースト	41組 57名
9月16日、17日、25日、28日、29日	さつまいもパン・ピザ	84組 91名
10月2日、19日、20日、21日、29日	じゃがいものおやき・さつまいものおやき	93組 115名
11月5日、6日、16日、17日、18日	豆腐入りハムチーズ蒸しパン	59組 70名
12月8日、14日、16日、17日、25日	炊飯器deケーキ	84組 110名
1月7日、20日、26日、29日	簡単おはぎ	70組 93名
2月1日、2日、3日、12日	いりこ大豆	72組 91名
3月1日、2日、17日、18日	コーンフレークおこし	74組 94名



(2) 製作

日にち	内容	組数
4月20日、21日、22日	鯉のぼり	41組 51名
5月18日、19日、20日	季節の押し花でランチョンマット作り	53組 64名
6月23日、24日、25日、26日、29日、30日	七夕飾りを作ろう	88組 115名
7月1日、2日、3日、6日、7日	七夕飾りを作ろう	78組 108名
9月1日、2日、3日	おじいちゃん・おばあちゃんへのおたより	60組 80名
10月7日、8日、9日	Let's廃材でクッキング	53組 64名
11月9日、10日、11日	秋を飾ろう～秋の実りで卓上飾り～	52組 61名
12月1日、2日、3日、4日	ペットボトルで作ろう!お部屋の飾り作り	66組 77名
1月12日、13日、14日、15日	リリアン編みであったか小物を作ろう	66組 82名
2月15日、16日、17日、18日	みんなの足型でひな飾り作り	81組 102名
3月7日、8日、9日、10日、11日	プランター&ピック作り	85組 91名





(3) 品川先生（東大阪大学短期大学部健康栄養学科准教授）による歯科相談

日にち	内容	組数
12月24日、25日、1月21日、22日、29日	歯科相談	72組 93名



2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日（月1回）

土曜日・日曜日に家族そろって参加できるように計画し、実施しました。

日にち	内容	組数
5月31日（日）	らくがき遊び	40組 50名
6月28日（日）	赤ちゃん体操	28組 23名
8月8日（土）	みんなで遊ぼう	28組 35名
9月13日（日）	赤ちゃん体操	33組 24名
11月21日（土）	子育てママ・パパの離乳食	20組 14名
12月19日（土）	お正月の準備！しめ縄を作ろう	39組 50名
3月25日（金）	第12回 参加者交流会	41組 63名



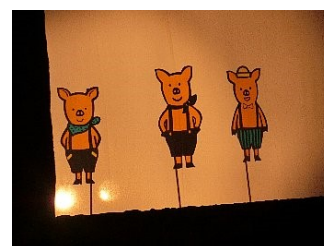
3. 「こども応援ひろば」

(1) こども応援ひろば 2015 パート I

学生（CS4 子育て演習）の授業受講者との共催で実施。

「ゾウのがたはなび」や「パンダのうちわ作り」など、本学の学生もスタッフの一員として、子どもと接し、保護者からも親しみやすい雰囲気であったとの感想をいただきました。また、今回、こども研究センターでは、保育士による影絵「三匹のこぶた」を上演しました。

日にち	内容	組数
7月19日（日）	こども応援ひろばパートI	229組 227名





(2) こども応援ひろば 2015 パートⅡ

音楽を聴く会「～近畿大学吹奏楽部よる演奏会～」

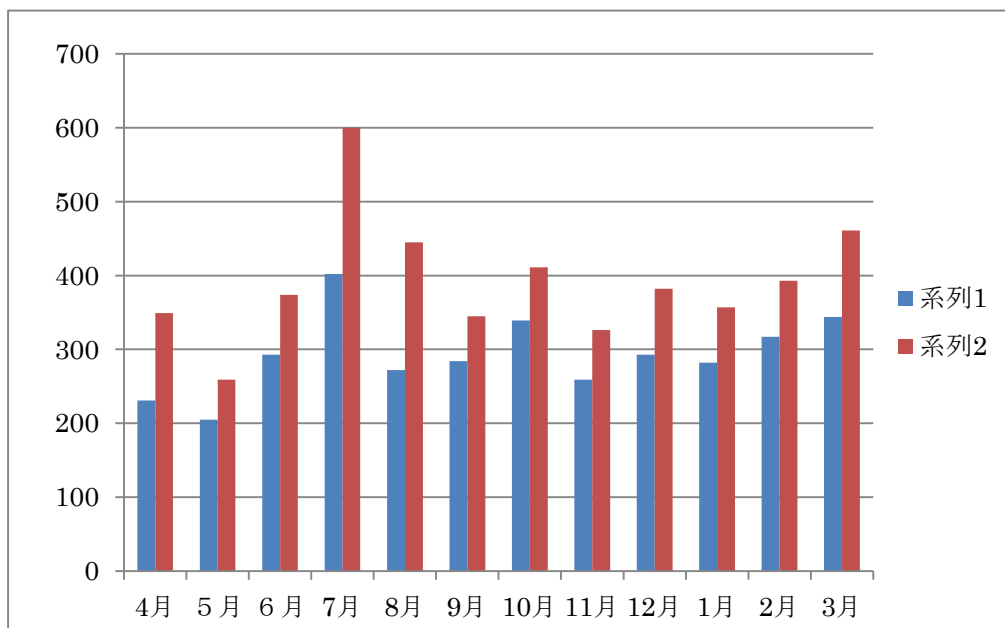
近畿大学吹奏楽部をお招きし、演奏会を開催しました。当日は、子どもも大人も楽しめる内容であり、子どもの”指揮者体験”は好評でした。

日にち	内容	組数
2月20日(土)	こども応援ひろばパートⅡ	117組 111名



平成27年度 こども研究センターこども広場利用者数一覧表

	組	名	開設日数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生以上	1日平均日数
4月	231	349	17	31	68	95	36	70	16	8	3	20.5
5月	205	259	17	48	48	102	30	15	4	3	0	15.2
6月	293	374	21	73	54	168	49	20	3	2	2	17.8
7月	402	600	20	75	80	173	101	73	38	28	24	30
8月	272	445	15	37	52	106	74	46	43	12	58	29.6
9月	284	345	18	40	66	149	57	21	6	1	1	19.1
10月	339	411	19	30	104	152	67	30	11	9	2	21.6
11月	259	326	19	26	61	123	65	18	14	4	0	17.1
12月	293	382	17	32	59	113	60	32	22	4	12	22.4
1月	282	357	16	40	46	133	81	30	15	9	3	22.3
2月	317	393	17	57	57	144	82	27	18	1	1	23.1
3月	344	461	16	37	72	153	100	41	21	24	9	28.8
計	3521	4702	212	526	767	1611	802	423	211	105	115	22.2





[10] FD・SD・IR研究会

1. 研修会

本年度より本研究会はFD・SD研究会からFD・SD・IR研究会へ名称が変更されました。そこで、本学教職員がIRとは何かについて知り、IRを授業や教育改善にいかしていくにはどのようにすればよいかを考えるために、平成27年10月28日に第1回FD研修会を行いました。講師として京都光華女子大学キャリア形成学部教授の阿部一晴氏を招き、「FD・SDに有効につなげるためのIRの実践」や「研究倫理教育の取り組み」について講演いただき、グループワークを行いました。



阿部一晴教授によるグループワーク



栖原有馬人教授によるeラーニング研修会

また、本学で情報系科目だけでなく、全科目の教員がeラーニングを導入できるようにするために、平成28年2月24日に第2回FD研修会を実施しました。講師として本学情報教育センター長の栖原有馬人教授を招き、「eラーニングを全科目導入しましょう」という演題で講演していただき、実際にグーグルクラスルーム入門で教材の作成を行いました。

2. 授業評価アンケートの実施

昨年度までマークシートによるアンケートを行っていましたが、平成27年度からオンライン回答をすることになりました。その結果、真剣に回答する学生が大幅に増えたのでよかったと考えています。また、学生からも「マークシートで回答していると隣の友達に見られて恥ずかしい」(26年度)、「教員に回答をしているところを見られるので本当のことを回答できない」(25年度)という意見がありましたが、今年度はそのような意見は皆無でした。授業後に回答している学生もおり、携帯画面を他人に見られることはなく、人目を気にすることなく回答できるので、以前のように友達とふざけ合って回答するようなことがなくなり、本音で回答したものと考えられます。

また、非常勤講師担当科目も含めた全科目のアンケート結果を公表したことに対しては大きな反響があり、授業後にPCから回答するなど、学生のアンケートに対する積極的な姿勢も見られました。

3. 授業評価アンケートの分析

学生の姿勢、授業内容、授業の手法、授業の環境についての質問項目では、ほとんどの科目で80%以上の学生が積極的に取り組んだと感じ、授業の内容を理解し、興味をもち、レベルが



適切だったと回答していました。授業の手法についてもほとんどの学生が満足しており、教員の授業をわかりやすくしようとする工夫が見受けられる結果となりました。

本年度、授業評価アンケート結果を分析することで、様々な課題が浮かび上がりましたが、これらの課題を改善していくことで、学生の授業に対する満足度が高くなるだけでなく、入学してよかったと思えるような学生生活を送ることができるようになると思います。

[11] 総務部

1. 教育懇談会の開催

本学では、「教育の今」を伝えるべく、毎年保護者対象の教育懇談会を開催しています。

本年度も、平成27年10月18日（日）午後1時より本学851教室において開催しました。

村上靖平学長の挨拶から始まり、源伸介教学部長からの大学生活の様子などの紹介がなされました。

その後、本学の卒業生の現況報告として、短期大学部幼児教育学科から1名、健康栄養学科から1名、大学こども学部こども学科から1名の卒業生が各職場での奮闘ぶりを語ってくれました。

その後、大学、短期大学部それぞれ学科ごとに分かれての個別相談会が開催され、学科長が中心となって担任あるいはゼミ担当者が、成績に関する質問や就職に対する質問などについて、懇切丁寧に対応していました。

本年度参加された保護者の方は、大学17名、短期大学部20名、計37名でしたが、去年は28名でしたので、徐々にこの取り組みが保護者の方に浸透しているのではないかと思います。

本学ではこういった保護者の方とのコミュニケーションを大切にしたいと考え、さらに多くの保護者の方の参加を願っています。



教育懇談会の様子

2. 防災避難訓練の実施

平成23年3月、東日本大震災で甚大な津波被害が発生したことから、同年6月、津波被害から国民の生命、身体・財産を保護することを目的に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、この法律で毎年11月5日を津波防災の日とすることとされました。

本学ではその日にあわせ（今年度は平成27年11月5日）に、気象庁が全国的に呼び掛けて行われた緊急地震速報による訓練の一環として、大学、短期大学部の全学生、教職員を対象に防災訓練を実施しました。

当日は午前10時15分の気象庁による訓練用の緊急地震速報を合図に、事前に配付された防災訓練実施要項に基づき、各授業担当者による地震発生時の初期行動（机の下に身を隠す）、避



消防署員による救急救助法の説明



難経路の確認、指定避難場所への避難誘導、通報連絡班による消防署への通報、避難誘導班による救助訓練、搬出警戒班による重要物の搬出・警戒、救護班による応急救護所の設置、消火班の消火器による消火訓練などが行われました。(参加学生数 192 名、参加職員数 28 名)

また、平成 28 年 2 月 23 日 (火) には、東大阪市西消防署と村上学園合同の大掛かりな防災訓練が実施されました。

当日は、消防署の広報により、近隣の保育園、幼稚園をはじめ、近隣の住民の皆さんも多数参加され、はしご車 2 台、化学消防車 1 台、ポンプ車 1 台他 5 台、消防用ヘリコプターなどによる消火訓練、救助活動など、緊張感あふれる訓練となりました。園児たちは、本物の消防車を目の当たりにし、大変喜んでいました。



はしご車を利用した救助訓練

[12] 桃風寮

1. 新寮生歓迎会 [平成 27 年 5 月 19 日 (火)]

新入寮生を在寮生が迎える行事です。大学生、高校生両者が力を合わせて企画し、新たに入寮してくる高校生、留学生や大学生、短大生たちを迎えて、歓迎会が開かれました。

歓迎のお礼として留学生覃婉儀 (チン エンギ) さんが中国独特の管楽器である瓢箪笛 (フルシ) の演奏が披露され、大変好評を博しました。

2. 防災訓練 [平成 27 年 6 月 20 日 (土)]



消防署員の指導による消火訓練

毎年行われている寮の防災訓練ですが、寮生の中に多くの留学生がいることを事前に知ってか、東大阪西消防署の署員の方の中国語による挨拶があり、留学生は大喜びでした。

避難訓練については、若い寮生の方々にはなかなか緊張感が伝わらないのも事実ですが、行事としてより、経験を積む意味での本訓練の必要性や大切さを、繰り返し伝えていきたいと思っています。

3. 七夕祭・浴衣着付け体験 [平成 27 年 7 月 10 日 (金)]

留学生にとって、日本の文化体験の意味合いも持たせ、恒例としている行事です。寮の各所に七夕飾を飾り付け、浴衣の着付けを体験してもらい、スイカを食べながら、少しでも、日本のこの時期に行われる行事を体験してもらいました。今年は留学生、学生別に 2 日に分けて実施しました。



スイカを頬張る留学生たち



4. 退寮生送別会 [平成28年1月20日(水) 2月15日(月)、2月27日(土)]

今年度も退寮する寮生たち送る会を、学生、留学生、高校生それぞれ時期を分けて実施しました。

留学生の寮生たちが、一時帰国する時期を考慮した結果です。この行事においても、昨年より大学生、短期大学部生たちだけでなく、高校生も企画運営に参加してくれ、盛大に会を催すことができました。



大学・短大生の送別会

年間行事

	行事	内容
4月	・入学式(2日)	保護者入寮説明会及び寮生生活指導・各種申請
5月	・新寮生歓迎会(19日)	70名参加
6月	・防災訓練(20日)	寮生合同70名(大学・高校先生・職員参加) 東大阪西消防
7月	・七夕祭(10日)	留学生・短大、大学(高校留学生浴衣8名希望)
8月	・夏休み	バルサン散布・寮監夏季休暇(8/13/14/15)
9月		
10月	・寮生新役員推薦決定	寮会議実施
11月		
12月		寮監冬季休暇
1月	・卒業生送別会(20日)	大学・短大(20名参加)・来年度予算請求
2月	・留学高校生送別会	留学生(27日) 高校(15日)
	・高校生卒業式(27日)	退寮準備・引っ越し・新入寮生決定
3月	・学位記授式(22日)	受け入れ準備



Ⅲ. 学園財務の概要

1. 消費収支計算書

(単位 千円)

項目	年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
[収入の部]				
学生生徒等納付金		1,207,782	1,151,649	1,222,184
手数料		31,993	33,308	32,521
寄付金		19,321	24,816	17,867
補助金		1,094,979	1,041,744	924,322
資産運用収入		50,787	55,188	62,075
事業収入		89,494	82,416	83,961
雑収入		58,988	146,654	10,634
帰属収入合計		2,553,344	2,535,775	2,353,563
基本金組入額合計		0	0	0
消費収入の部合計		2,553,344	2,535,775	2,353,563
[支出の部]				
人件費		1,693,260	1,659,106	1,539,776
教育研究費		682,000	678,377	699,910
管理経費		322,237	310,722	295,995
資産処分差額		0	0	0
徴収不能金		5,107	1,775	4,432
消費支出の部合計		2,702,604	2,649,980	2,540,113
当年度消費支出超過額		149,261	114,205	186,550
前年度繰越消費支出超過額		1,781,913	1,862,116	1,858,225
基本金取崩額		63,358	194,408	182,660
翌年度繰越消費支出超過額		1,867,816	1,781,913	1,862,116



平成27年度事業活動収支計算書

(教育活動収入の部)		(特別収入)	
学生生徒等納付金	1,148,007	資産売却差額	0
手数料	33,219	その他の特別収入	488,083
寄付金	14,434	特別収入計	488,083
経常費等補助金	1,061,502	(特別支出)	
付随事業収入	112,589	資産処分差額	189,134
雑収入	37,744	その他の特別支出	302
教育活動収入計	2,407,495	特別支出計	189,436
(教育活動支出の部)		特別収支差額	298,646
人件費	1,524,302	基本金組入前当年度収支差額	248,489
教育研究経費	665,453	当年度収支差額	248,489
管理経費	297,800	前年度繰越収支差額	△1,867,816
徴収不能額等	2,679	基本金取崩額	198,304
教育活動支出計	2,490,234	翌年度繰越収支差額	△1,421,023
教育活動収支差額	△82,739	事業活動収入計	2,942,221
(教育活動外収入)		事業活動支出計	2,693,732
受取利息・配当金	46,643		
その他の教育活動外収入	0		
教育活動外収入計	46,643		
(教育活動外支出)			
借入金利息	14,061		
その他の教育活動外支出	0		
教育活動外支出計	14,601		
教育活動外収支差額	32,581		
経常収支差額	△50,158		



2. 貸借対照表

(単位 千円)

項目 \ 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
固定資産	13,243,457	10,487,381	11,486,321
流動資産	2,473,309	3,539,097	1,695,917
資産の部合計	15,716,766	14,026,478	13,182,238
固定負債	2,669,847	1,372,932	323,600
流動負債	693,790	548,906	604,738
負債の部合計	3,363,637	1,921,838	928,338
基本金の部合計	13,774,152	13,972,456	14,035,813
消費収支差額の部合計	△1,421,023	△1,867,816	△1,781,913
負債の部、基本金の部及び 消費収入差額の部合計	15,716,766	14,026,478	13,182,238

3. 財務比率

(単位 %)

項目 \ 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
人件費率	62.1	66.3	65.4
人件費依存率	132.8	140.2	144.1
教育研究費比率	27.1	26.7	26.8
消費支出比率	91.6	105.8	104.5



東大阪大学・東大阪大学短期大学部

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

TEL.(06) 6782-2824 FAX(06) 6782-2896